



おおの・こうへい
2000年東京医科歯科大学医学部保健衛生学科看護学専攻卒業。
卒業後、公立学校共済組合関東中央病院に勤務。泌尿器科と脳神経外科の混合病棟、ICU、代謝内分内分泌科と神経内科の混合病棟を経て、現在は亜急性期の患者さんが入院する地域包括ケア病棟で師長として勤務。保健師、日本糖尿病療養指導士、日本DMAT隊員。

卒業生の今 活躍する医科歯科人

サッカーチームと同じように 個人を尊重した病棟運営を

公立学校共済組合関東中央病院
看護師長

大野耕平氏
Kohei Ohno

公立学校共済組合関東中央病院で働く大野耕平さん。看護師という仕事に興味を持ったのは、高校生のとき。骨折して入院した病棟の看護師さんがとても優しく、保健衛生学科看護学専攻に入学した。「高校生のときは看護師は女性の仕事というイメージだったので、受験前に『男子だけれど受けていいですか』と大学に電話したくらい何も知りませんでした(笑)。患者さんに近い仕事があったので、医師ではなく看護師の道に進みました。実際に看護師として働きはじめてからは、多くの患者さんやスタッフと触れあって、自己実現のお手伝いができることにやりがいを感じています」

現在勤める地域包括ケア病棟では、32人のスタッフをまとめる師長として病棟運営を任されている。「ここはもともと脳梗塞の急性期対応と糖尿病教育入院を実施していました。環境としては改善の余地がありました。看護師たちはピリピリしていて、患者さんに



対しても厳しく関係も良くなかった。そこで、何年も時間をかけて糖尿病のことや治療のことを学んでもらい、目標を共有し合っていました。今では当院の中で最も離職率が低い病棟になり、患者さんも『またここに入院したい』とも言ってくれます。患者さんは健康でいてくれた方が良いですが、ありがたいことです」

プライベートでは、息子さんが通う小学校につくったサッカーチームの運営に注力している。大野さんにとっては、サッカーチームも病棟運営も同じだ。「サッカーではボールを蹴っている選手が主役ですから、選手の考えを尊重して、楽しんでプレーできるようにするのがコーチの仕事。病院でも同じで、患者さんや看護師の考えを尊重して、それぞれが楽しむことを大事にしています。そして、一人ひとりがそのような考えを持ち、主体的に考えて動けるようになってほしいのです」

そんな人材を育てるため、大野さん自身も管理者としてさらなるスキルアップを目指している。 **B**



公立学校共済組合関東中央病院 東京都世田谷区上用賀6-25-1 <https://www.kanto-ctr-hsp.com/>

【基本データ】
病 床 数：403床(一般315床・精神50床・地域包括38床)
診 療 科：30診療科+救急部、内視鏡室、栄養管理室、血液浄化室など
各種指定：救急告示病院(二次救急)、東京都災害時後方医療施設、労災指定病院、
日本医療機能評価機構認定病院(一般病院B)、地域医療支援病院、東京都がん診療連携協力病院